



苔テラリウムづくりを体験しました。

梅雨も明け、毎朝灼熱の世界に出るための玄関ドアを開けることに勇気が必要な季節になりました。今回は昨年の草木染めでも講師をお願いした南アルプス市芦安地域おこし協力隊の佐藤仁美さんに再び協力をお願いして苔テラリウム作りを体験してきました。

初めに、苔テラリウムを作るにあたって苔の観察に出掛けました。普段は見かけても気にすることがなかった苔ですが、佐藤さんの説明を聞きながらルーペを使ってじっくり観察してみると色々な種類があることに気づき、遠くで見ると同じ緑一色に見えますが、近くで観察するとそれぞれ違った特徴を持っていることが分かりました。また、日陰が好きな苔があれば日向が好きな苔もあり、苔も私たちと同じように色々な個性を持っているんだと考えさせられました。佐藤さんから『ナンジャモンジャゴケ』というおもしろい名前の苔があるという話してもらい、それまで苔に興味なかった私や子どもたちは苔に惹かれていきました。

苔の観察から戻るといよいよテラリウム作りです。

小さい苔と向き合いながら、1本ずつピンセットを使ってガラスの容器に植えていきました。コロナ禍にはぴったりの体験活動で、みんな作業に集中して自分が思い描いた世界観を作るために黙って作業をしていました。

出来上がった作品はどれも上手にできていて、子どもたちも「楽しかった」と言ってくれました。

芦安の豊かな自然だからこそ出来る貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。



作業中の風景



講師の紹介

佐藤さんは地域おこし協力隊として、南アルプス市芦安地区の豊かな自然を活かしながら、芦安地区の良さを色々な人に伝えるため日々奮闘されています。講師をお願いしたのは今回で2度目ですが、子どもたちの目線に立って楽しく指導していただいています。

テラリウムの語源はラテン語で大地・陸地を意味する『terra』と場所を意味する『arium』を合わせた造語だそうです。

テラリウムの起源は19世紀のヨーロッパと言われており、このころヨーロッパでは世界中の珍しい植物を集めていました。集められた植物は観賞用だけではなく、薬用や工業用などに使われ、アジアや中南米から持ち込まれる植物には高い価値がありました。当時はまだ飛行機がなかったため、船を使って植物を輸送していたのですが、枯らさずに植物を持ち帰ることは大変で、船の上では十分な水を与えることが出来なかったり、海からの潮風にさらされて植物が弱ってしまったり、せっかく苦労して採取しても本国に持ち帰るまでに多くの植物が枯れてしまったそうです。そこで考えられたのがテラリウムの元祖となるウォードの箱と呼ばれる密閉したガラス製の箱でした。この箱のおかげで植物を枯らさずに輸送できるようになったそうです。

苔テラリウムは水やりも週に1回程度と管理も簡単で、手軽に自分だけの世界観が作れて、癒やされることで最近注目を集めています。



真剣に佐藤さんの話を聞いています。



完成したテラリウム

協力機関

- ・警察本部
- ・南アルプス警察署
- ・少年補導員連絡協議会

ご協力ありがとうございました。



支援を必要としているお子さんが近くにいませんか??

スマサポは様々な悩みや問題を抱えているお子さんの立ち直し支援を行っています。「現状を何とかしたいけどどうすればいいのかわからない」「支援をして欲しい」「支援の内容を教えて欲しい」といった方は担当まで連絡をください。

山梨県 スマサポ



山梨県少年サポートネット推進協議会
愛称:スマイルサポートプロジェクト(スマサポ)

《事務局》
山梨県教育委員会 生涯学習課
青少年保護育成担当

TEL 055-223-1357